

編集後記：先日、3月に開業したエスコンフィールド北海道に野球観戦に行ってきました。野球において、ホームランは最も盛り上がる瞬間ですが、札幌ドームに比べ新球場は外野が狭く、フェンスも低くなったせいか、ホームラン数はかなり増えているそうです。

打球は空気の抵抗を受けるため、ホームランの出やすさは球場の標高や気象条件によっても変わります。標高1600mにあるデンバーのクアーズフィールドでは、空気の密度が低いため、ホームラン性の打球の飛距離は他球場と比べ10m以上伸びるそうです。また、夏の高校野球甲子園大会では、浜風とよばれる海風の影響で、ライト方向への飛球が失速するシーンが良く見られます。

多くのメディアに取り上げられたので、読まれた方も多いかと思いますが、温暖化と米国メジャーリーグ（MLB）におけるホームラン数の関係について調べた論文が *Bulletin of the American Meteorological Society* の2023年5月号に掲載されました。MLBでは、

1980年代に1試合当たり約1.6本だったホームラン数が劇的に増加し、2010年代には約2.1本になったそうです。著者らは、膨大な試合と打球のデータを用いてホームランと気温の関係について調査し、2010年代のホームランのうち、500本以上は温暖化による空気密度の低下によるもので、今後の温暖化により年間数百本の増加が予想される、と述べています。500本と書く人多そうに思えますが、これは全ホームランの約1%、1980年代からの増加分の約4%に過ぎないので、定量化しにくい諸々の要因の効果に比べ、温暖化の効果はわずかである、というのが実際のところでしょうか。

温暖化の影響は別にして、気温が高くなると、空気密度の低下により打球が伸びるようになります。先日の試合では残念ながらホームランは見られませんでした。今度は球場の屋根を開ける天気の良い日に、観戦に行こうと思っています。

（川島正行）